

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：32412

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01470

研究課題名（和文）北朝鮮の体制の持続性の根拠：中東・東南アジア・アフリカとの国際的ネットワーク

研究課題名（英文）Grounds for Sustainability of North Korea's Regime: International Networks with the Middle East, Southeast Asia and Africa

研究代表者

宮本 悟（Miyamoto, Satoru）

聖学院大学・政治経済学部・教授

研究者番号：70412137

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,700,000円

研究成果の概要（和文）：研究代表者と研究分担者が、東南アジアやモンゴルなどを訪問して、北朝鮮との関係を調査してきた。反米を旗幟とした北朝鮮は西側諸国との関係は低調であるが、反米・中立である権威主義体制の諸国家との関係は活発である。それが北朝鮮の体制の強靱性と持続性をもたらしてきた。権威主義国家でも、親米であれば距離を置いている。友好国であるかの基準は体制ではなく、反米か否かである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、北朝鮮の権威主義体制の「強靱性・持続性」を、国際的なネットワークの構築に求める点で従来の国内政治要因に焦点を当てた研究とは大きく異なる。グローバリゼーションが権威主義体制の強化に寄与することを示し、北朝鮮の中東・アフリカ・東南アジア諸国との関係を通じた体制維持のメカニズムを解明する。これにより、国連安保理制裁の影響力についての国連研究、権威主義体制の相互関係をめぐる比較政治学、紛争研究に貢献し、北朝鮮の強靱性を検証することで、より広い学問分野への創造的貢献が期待される。

研究成果の概要（英文）：The principal investigator and co-investigator of this study have visited Southeast Asia and Mongolia, etc., to study North Korea's relations with these countries. North Korea, with its anti-American banner, has had weak relations with Western countries, but active relations with authoritarian regimes that are anti-American or neutral. This has contributed to the resilience and sustainability of the North Korean regime. North Korea distances itself from authoritarian regimes when they are pro-U.S. The criterion for being a friendly country is not the regime, but whether it is anti-American or not.

研究分野：政治学

キーワード：北朝鮮 権威主義体制 国際的ネットワーク 強靱性 持続性 東南アジア 中東 中国

1. 研究開始当初の背景

政治学では、アメリカやイギリスなどの強靱な民主主義体制と考えられてきた国々での「民主主義の後退」が議論されるとともに、いずれ民主化するであろうと想定されていた権威主義体制にむしろ「強靱性・持続性」が見られることが注目を集めていた。

強靱性・持続性のある権威主義体制の国家の事例としては、中国が取り上げられる傾向にある。高い経済成長に裏付けられた劇的な生活水準の向上や国民監視の技術革新、国際的な大国化による国威発揚が中国の権威主義体制の「強靱性・持続性」の要因として指摘される。

ここで十分に考察されていないのは、経済発展や大国化といった条件を満たしていない権威主義体制の国家でも「強靱性・持続性」が観測されることである。北朝鮮はこの点で格好の事例である。北朝鮮は極度の権威主義体制であるが、1990年代の経済危機や国際的制裁を乗り越え、「強靱性・持続性」を見せてきた。中国とは対照的に高度経済成長も大国化による国威発揚も成功していない。その北朝鮮の「強靱性・持続性」の原因はどこにあるのか。

従来の研究では、北朝鮮の権威主義体制の強靱性については、主に国内政治の要因に着目してきた。国内の軍などの社会組織の掌握によるクーデターの阻止などである。これは、政権内の分裂を防ぎ体制の持続を図るために不可欠の要素であった。では、軍やその他の社会組織の忠誠を維持するために必要な原資を北朝鮮の政権はどこから得てきたのか。これが解明課題として残されていた。

それを明らかにするために、本研究では「国際的ネットワーク」に注目する。本研究の仮説は、北朝鮮の権威主義体制の「強靱性・持続性」の原因として、権威主義体制間の国際的なネットワークによって、「北朝鮮の体制への国際的な支持あるいは黙認がもたらされた」ことである。これが、本研究で提起し、検証する「問い」でもある。そこで、本研究では、中東・アフリカ・東南アジア諸国と北朝鮮の国際的なネットワークの実態を解明し、北朝鮮の権威主義体制の「強靱性・持続性」への影響を解明することを課題とした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、北朝鮮と中東・アフリカ・東南アジア諸国のネットワーク構築が北朝鮮の体制の「強靱性・持続性」に及ぼす影響を国内統治に必要な資源の獲得と国際環境の改善という両面から検討することにある。

本研究で提起する研究対象は、北朝鮮が中東・アフリカ・東南アジア各国に構築してきた安全保障を中心とした技術や人的サービスの輸出入を中心とした国際ネットワークである。困難な経済環境の中で軍などの重要な社会組織に資源を配分し、政権への忠誠の見返りとして十分な褒賞を与えることができた原資を、北朝鮮が中東・アフリカ・東南アジアに構築した国際ネットワークから調達してきたというのが本研究課題の着目点である。

本研究の目的として解明に取り組む研究対象は、北朝鮮が中東・アフリカ・東南アジア各国に構築してきた安全保障を中心とした技術や人的サービスの輸出入を中心とした国際ネットワークである。困難な経済環境の中で軍などの重要な社会組織に資源を配分し、政権への忠誠の見返りとして十分な褒賞を与えることができた原資を、北朝鮮が中東・アフリカ・東南アジアに構築した国際ネットワークから調達してきたというのが本研究課題の着目点であるからである。そこで、本研究では、北朝鮮が中東・アフリカ・東南アジア諸国と行ってきた貿易や経済進出などの活動をそれらの地域の専門家と協力しながら、過去に遡り、最新の現状に至るまで調査することにした。

3. 研究の方法

本研究は、北朝鮮がアジア・中東・アフリカ諸国との間に構築している政治・経済的な国際ネットワークの実態を、歴史的に解明しつつ、最新の現状把握を目指した。そこで、本研究では、各国の地域研究で大きな成果を上げてきた専門家の資料収集・評価能力を結集し、中東・アフリカ・東南アジア諸国と北朝鮮の安全保障貿易を中心とした経済的な進出と政治・外交関係の構築の歴史と現状を、現地での文献資料の収集とインタビューの実施により記録した。

ただし、実際の調査研究は困難であった。その一つ目の要因は、権威主義体制国家は、輸出入データなど政治・経済のデータの公開性が低いことである。また、北朝鮮と友好関係にある国の政府は、国連安保理制裁下にある北朝鮮との貿易や政治外交関係についての情報公開に消極的であり、安全保障に関する貿易であればなおさらである。そのため、当該諸国の研究機関や報道機関、あるいは国営・民間双方のアーカイブから直接的に資料を得ることが困難な場合が多かった。研究期間中にますます資料公開を制限した中国とロシアは特にそうである。本研究ではそのことも想定し、北朝鮮との敵対的な外交関係を持つ国々の研究機関や報道機関による「敵国研究」としての北朝鮮研究の成果も取り入れていった。

二つ目の要因は、研究期間に生じた新型コロナウイルス感染症のパンデミックによるもので

ある。それは、以下の2つの問題を生じさせた。

各国の入国制限によって、外国での研究調査が一時不可能になったことである。国によっては現在でも難しいところがある。これによって、研究調査が遅れたり、研究計画を変更したりして、調査研究に大きな支障があった。

北朝鮮も国境封鎖によって、2年ほど外国との貿易や交流をほとんどしなくなったことである。これによって、北朝鮮の国際的なネットワークを調べにくくなった。

研究調査は様々な障害があり、研究計画には大きな変更があったが、研究方法には大きな変更は加えず、可能な範囲内での研究調査はほぼ達成できたと考える。

4. 研究成果

本研究の研究成果の発表としては、研究代表者と研究分担者が集い、初年度である2020年度は新潟でシンポジウムを開催し、2023年度にも東京大学先端科学研究センターでシンポジウムを開催した。また2024年8月には研究代表者と研究分担者全員が執筆した英語論文の論文集を発行する予定になっている。また他にも研究代表者と研究分担者が各々、学術誌などに論文を投稿して、研究成果の一部を発表してきた。

研究過程で分かってきたのは、権威主義体制の国家でも北朝鮮と距離を置いている国があり、民主化が進んだ国家でも北朝鮮に近い国があるということである。タイやミャンマーは権威主義体制であるが、北朝鮮とはそれほど近い関係ではない。ところが、モンゴルやインドネシアは民主化が進んでいても、北朝鮮との親密な関係の部分がある。北朝鮮の国際的なネットワークをつなぐものは政治体制だけではなく、別の要因が強いと思われる。

その要因の一つは、歴史的な経路であると思われる。ベトナムとラオス、カンボジアのように、ベトナム戦争やその後の戦乱で、北朝鮮が軍隊派遣も含めたかなりの援助をしてきた国家とは、その後の一時的な対立があっても、やはり関係を改善する方向に動きやすい。また旧社会主義国家とも関係改善しやすい。それは経済的な利益というよりも、それらの国々は、友好関係を維持するために北朝鮮の国内のことに干渉しようとならないので、それが国際社会における北朝鮮の正統性を示すことになるからと考えられる。

もう一つは、反米政策である。北朝鮮が国際社会で重点をおいていたのは、社会主義陣営と非同盟運動であるが、北朝鮮が両者に求めたものは反米か中立であった。アメリカやその影響力が強い国々との関係は外交関係があってもそれほど強くない。ただし、これも例外はある。エジプトやベトナムのように、反米であった国々がアメリカに近づいても、外交関係を切ることは少ない。それはエジプトのように首脳の個人的な関係であったり、ベトナムのように社会主義国家であったりして、特殊な事情があった場合である。

貿易などの経済的な利益は国際的なネットワークにとってそれほど重要ではない事例が見られる。それを如実に示したのが、北朝鮮が貿易拠点としてきたマレーシアと2021年に断交したことである。理由は、マレーシア当局が制裁違反で拘束していた北朝鮮人をアメリカに引き渡したことである。貿易拠点であるマレーシアを失っても、北朝鮮は意に介しなかった。北朝鮮の体制を維持するための国際的なネットワークでは、経済的な利益はあまり重要な要素ではないようである。

反米色が強い北朝鮮の国際的なネットワークは、経済的な利益を期待したものよりも、友好関係を維持するためにお互いに体制に干渉せずに、米国やその影響力が近い勢力と対抗するための国際協力レジームのようなものであり、それが北朝鮮の体制の持続性や強靭性に大きく作用したと思われる。

<参考文献>

Satoru Miyamoto, "North Korea's Military Cooperation Policy Toward Iran and other Middle East Countries," *ROLES Review*, Vol.3, (March 2023) pp. 45-68

宮本悟「北朝鮮・マレーシア断交、両国友好に尽力したマハティールは何思う」『日経ビジネス』(2021.3.24) <https://business.nikkei.com/atcl/seminar/19/00023/032300246/>

他、*ROLES Review*, Vol.5 (August 2024)に収録予定の研究代表者と研究分担者による原稿を参考にした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計48件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 28件）

1. 著者名 Satoru Miyamoto	4. 巻 5
2. 論文標題 North Korea's Overseas Troop Deployments and Weapons Exports	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ROLES Review	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Satoru Miyamoto	4. 巻 5
2. 論文標題 North Korea and the Vietnam War - Air Force deployment and post-war implications -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ROLES Review	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Satoru Miyamoto	4. 巻 5
2. 論文標題 Friendship between North Korea and Mongolia - Friendly relations between neighbors of different regimes -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ROLES Review	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Satoru Miyamoto, Satoshi Ikeuchi	4. 巻 5
2. 論文標題 North Korea and the October War - The relation with Egypt and Syria -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ROLES Review	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Jun Honna	4. 巻 5
2. 論文標題 Indonesia ' s Diplomacy to North Korea: Changes and Continuities	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ROLES Review	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshihiro Nakanishi	4. 巻 5
2. 論文標題 Re-militarized Myanmar and the Diplomatic Relations with North Korea	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ROLES Review	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshifumi Tamada	4. 巻 5
2. 論文標題 Thailand and the North Korean Defectors	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ROLES Review	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takeshi Yamane	4. 巻 5
2. 論文標題 The Philippines - North Korea Relations From the Perspective of the Philippine Security	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ROLES Review	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasuhiro Matsuda	4. 巻 5
2. 論文標題 Interaction between the Taiwan Strait and Korean Peninsula: Are C rises C ascending?	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ROLES Review	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 69(3)
2. 論文標題 不完全な民主化から困難な再権威主義化へ ミャンマーにおける体制移行の連鎖について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 18-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11479/asianstudies.as23.si10	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoru Miyamoto	4. 巻 40(2)
2. 論文標題 Why Is the Political Regime of North Korea Tough? Comparison with the Market Economization of China, Vietnam, and Cuba	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 East Asia	6. 最初と最後の頁 133 ~ 149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12140-022-09396-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoru Miyamoto	4. 巻 3
2. 論文標題 North Korea 's Military Cooperation Policy Toward Iran and other Middle East Countries	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ROLES Review	6. 最初と最後の頁 45-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 本名 純	4. 巻 73
2. 論文標題 インドネシア「両にらみ」のしたたかさ：G20サミットに向けたウクライナ情勢への対応と国内政治	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 104-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 玉田 芳史	4. 巻 56(5)
2. 論文標題 軍隊と君主制：タイ政治の転換点	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 14-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉田 芳史	4. 巻 93
2. 論文標題 タイにおけるSDGsの政治利用	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際情勢紀要	6. 最初と最後の頁 179-190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本名 純	4. 巻 2022年5月号
2. 論文標題 東南アジアにおける新型コロナウイルスとテロリズム	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 修親	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉田 芳史	4. 巻 55 (3)
2. 論文標題 ワクチンをめぐる政治	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉田 芳史	4. 巻 55 (4)
2. 論文標題 ワクチンをめぐる政治(その2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉田 芳史	4. 巻 55 (5)
2. 論文標題 ワクチンをめぐる政治(その3)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 4-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉田 芳史	4. 巻 92
2. 論文標題 COVID-19と国体危機：タイにおける脱民主化をめぐる攻防	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際情勢：紀要	6. 最初と最後の頁 157-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉田 芳史	4. 巻 56 (6)
2. 論文標題 ブラコット政権とAPEC首脳会議	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉田 芳史	4. 巻 57 (1)
2. 論文標題 SDGsとSEP	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田 康博	4. 巻 4(2)
2. 論文標題 ウクライナ戦争は米中新冷戦をどう変えるか?: 習近平の選択が台湾海峡情勢に与える影響	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 94-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中西 嘉宏	4. 巻 3(3)
2. 論文標題 ミャンマーの安全保障観と2・1クーデター	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 33 - 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中西 嘉宏	4. 巻 704
2. 論文標題 ミャンマーは破綻国家になるのか：政変後の混迷と新たな展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 41-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮本 悟	4. 巻 76(2)
2. 論文標題 北朝鮮の軍事同盟条約集	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本 悟	4. 巻 76(2)
2. 論文標題 北朝鮮の対外政策における軍事同盟の目的	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本 悟	4. 巻 17
2. 論文標題 北朝鮮のアフリカ農業支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 祝杯	6. 最初と最後の頁 68-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoru Miyamoto	4. 巻 3
2. 論文標題 North Korea's Military Cooperation Policy Toward Iran and other Middle East Countries	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ROLES REVIEW	6. 最初と最後の頁 45-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮本 悟	4. 巻 22
2. 論文標題 北朝鮮の新型コロナウイルス対策: 貿易と対外関係に対する影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代韓国朝鮮研究	6. 最初と最後の頁 14-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮本 悟	4. 巻 374
2. 論文標題 北朝鮮の技師が設計したベトナムの街・キムリエン (金蓮) 団地	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 レインボー코리아通信	6. 最初と最後の頁 68-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本 悟	4. 巻 67号
2. 論文標題 シンポジウム「北朝鮮の経済と貿易」報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 47-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15052/00003867	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中川 雅彦	4. 巻 67号
2. 論文標題 北朝鮮の経済・貿易制度：自力更生論の強みと弱み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 49-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15052/00003868	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池内 恵	4. 巻 67号
2. 論文標題 中川報告「北朝鮮の経済・貿易制度：自力更生論の強みと弱み」へのコメント：北朝鮮の中東諸国との安全保障貿易	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 66-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15052/00003869	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中西 嘉宏	4. 巻 67号
2. 論文標題 中川報告「北朝鮮の経済・貿易制度：自力更生論の強みと弱み」へのコメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 74-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15052/00003870	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀田 幸裕	4. 巻 67号
2. 論文標題 中国との貿易・交流	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 78-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15052/00003871	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田 康博	4. 巻 67号
2. 論文標題 堀田報告「中国との貿易・交流」へのコメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 97-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15052/00003872	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山根 健至	4. 巻 67号
2. 論文標題 堀田報告「中国との貿易・交流」へのコメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 99-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15052/00003873	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三村 光弘	4. 巻 67号
2. 論文標題 ロシアやモンゴル等との貿易・交流	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 102-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15052/00003874	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉田 芳史	4. 巻 67号
2. 論文標題 三村報告「ロシアやモンゴル等との貿易・交流」へのコメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 114-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15052/00003875	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 本名 純	4. 巻 67号
2. 論文標題 三村報告「ロシアやモンゴル等との貿易・交流」へのコメント：インドネシアと北朝鮮の関係：歴史と政治	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 123-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15052/00003876	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宮本悟	4. 巻 30巻1・2号
2. 論文標題 報告：シンポジウム「北朝鮮の経済と貿易」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖学院大学総合研究所Newsletter	6. 最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 697号
2. 論文標題 2つの病と1つの封じ込め策：コロナ禍のタイ（新型コロナウイルスに揺れる新興経済国）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 42巻
2. 論文標題 中国の対ラテンアメリカ政策 21世紀の言説と現実	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イペロアメリカ研究	6. 最初と最後の頁 3-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 宮本悟	4. 巻 61巻
2. 論文標題 北朝鮮：隔離措置優先で動揺なし	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根健至	4. 巻 60巻2号
2. 論文標題 ドゥテルテ政権期の超法規的殺害：フィリピンにおける政治的暴力についての予備的考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 59-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本悟	4. 巻 98巻40号
2. 論文標題 北朝鮮 労働党大会を5年ぶり開催へ 厳しさ増す北朝鮮の「経済計画」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週刊エコノミスト	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本悟	4. 巻 99巻7号
2. 論文標題 目標未達でも北朝鮮は「成長」 控えめに作った新5カ年計画	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 週刊エコノミスト	6. 最初と最後の頁 74-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件（うち招待講演 27件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 宮本 悟、池内 恵、小泉 悠、山口 亮
2. 発表標題 中東・アフリカにおける北朝鮮とロシアの活動
3. 学会等名 北朝鮮のグローバル展開 - ロシア・アジア・アフリカ - (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 松田 康博
2. 発表標題 台湾海峡と朝鮮半島の相互作用
3. 学会等名 北朝鮮のグローバル展開 - ロシア・アジア・アフリカ - (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 本名 純
2. 発表標題 インドネシアと北朝鮮
3. 学会等名 北朝鮮のグローバル展開 - ロシア・アジア・アフリカ - (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 玉田 芳史
2. 発表標題 タイと北朝鮮
3. 学会等名 北朝鮮のグローバル展開 - ロシア・アジア・アフリカ - (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 中西嘉宏
2. 発表標題 ミャンマーと北朝鮮
3. 学会等名 北朝鮮のグローバル展開 - ロシア・アジア・アフリカ - (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 山根健至
2. 発表標題 フィリピンと北朝鮮
3. 学会等名 北朝鮮のグローバル展開 - ロシア・アジア・アフリカ - (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 宮本悟、池内恵、山口亮
2. 発表標題 北朝鮮はどこへ行く？
3. 学会等名 北朝鮮のグローバル展開 - ロシア・アジア・アフリカ - (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 中西 嘉宏
2. 発表標題 危機によるミャンマーの脆弱国家化 政変と混迷を生んだ国際的要因の検討
3. 学会等名 アジア政経学会2022年度春季大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田 康博
2. 発表標題 展望2024年総統大選及立法委員選挙：兼論其对两岸關係の影響
3. 学会等名 两岸關係與日本涉台同向（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮本悟
2. 発表標題 北朝鮮の対社会主義国・対非同盟諸国政策の概要
3. 学会等名 日本研究者グループ招請学術会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 インドネシア・北朝鮮關係：変化と継続
3. 学会等名 日本研究者グループ招請学術会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 中国・北朝鮮關係の新展開－米中新冷戦と中台關係悪化を背景として－
3. 学会等名 日本研究者グループ招請学術会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 池内恵
2. 発表標題 北朝鮮の中東主要国との関係：軍と指導者
3. 学会等名 日本研究者グループ招請学術会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Satoshi Ikeuchi
2. 発表標題 North Korea's Relations with Egypt: A Personal Tie or Institutional Memory?
3. 学会等名 The Korean Peninsula and the Middle East at 60（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satoru Miyamoto
2. 発表標題 Military Cooperation between North Korea and Iran within North Korea's Military Cooperation Policy toward Middle East
3. 学会等名 The Korean Peninsula and the Middle East at 60（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中川雅彦
2. 発表標題 北朝鮮の経済・貿易システム 自力更生論の強みと弱み
3. 学会等名 シンポジウム「北朝鮮の経済と貿易」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池内恵
2. 発表標題 コメント：北朝鮮の中東諸国との安全保障貿易
3. 学会等名 シンポジウム「北朝鮮の経済と貿易」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中西嘉宏
2. 発表標題 コメント：北朝鮮の経済・貿易制度 自力更生論の強みと弱み
3. 学会等名 シンポジウム「北朝鮮の経済と貿易」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀田幸裕
2. 発表標題 中国との貿易・交流
3. 学会等名 シンポジウム「北朝鮮の経済と貿易」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 コメント：中国との貿易・交流
3. 学会等名 シンポジウム「北朝鮮の経済と貿易」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山根健至
2. 発表標題 コメント：中国との貿易・交流
3. 学会等名 シンポジウム「北朝鮮の経済と貿易」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三村光弘
2. 発表標題 ロシアやモンゴル等との貿易・交流
3. 学会等名 シンポジウム「北朝鮮の経済と貿易」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 玉田芳史
2. 発表標題 コメント：タイと北朝鮮の関係
3. 学会等名 シンポジウム「北朝鮮の経済と貿易」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 コメント：インドネシアと北朝鮮の関係を中心に
3. 学会等名 シンポジウム「北朝鮮の経済と貿易」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoru Miyamoto
2. 発表標題 North Korea and Wars in Africa and Asia
3. 学会等名 100 years of World Wars and Post-War Regional Collaboration and Good Governance How to Make a New World Order? (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮本悟
2. 発表標題 日朝関係
3. 学会等名 日本政治法律学会 第6回研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮本悟
2. 発表標題 北朝鮮の外交史 ~対国連・対非同盟政策(アジア・アフリカ外交)
3. 学会等名 ジェイエス・三進オンライン講座 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮本悟
2. 発表標題 北朝鮮の国連政策
3. 学会等名 国連史コロキアム第25回 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮本 悟
2. 発表標題 北朝鮮の新型コロナ対策
3. 学会等名 第1回 日本経済研究センター朝鮮半島経済研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 Jun Honda	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ISEAS Yusof Ishak Institute	5. 総ページ数 25
3. 書名 Health Security in Indonesia and the Normalization of the Military's Non-Defence Role	

1. 著者名 中西 嘉宏	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 312
3. 書名 ミャンマー現代史	

1. 著者名 佐藤 史郎(編著)、石坂 晋哉(編著)、山根 健至(著)他32	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 512
3. 書名 現代アジアをつかむ - 社会・経済・政治・文化 35の 이슈 -	

1. 著者名 松下 冽、山根 健至	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 264
3. 書名 新自由主義の呪縛と深層暴力：グローバルな市民社会の構想に向けて	

1. 著者名 川島 真、池内 恵	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 192
3. 書名 新興国から見るアフターコロナの時代：米中対立の間に広がる世界	

1. 著者名 池内 恵、宇山 智彦、川島 真、小泉 悠、鈴木 一人、鶴岡 路人、森 聡	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 132
3. 書名 ウクライナ戦争と世界のゆくえ	

1. 著者名 川島 真、鈴木 絢女、小泉 悠、池内 恵	4. 発行年 2023年
2. 出版社 P H P 研究所	5. 総ページ数 440
3. 書名 ユーラシアの自画像 「米中対立 / 新冷戦」論の死角	

1. 著者名 伊集院 敦、日本経済研究センター	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文真堂	5. 総ページ数 204
3. 書名 金正恩時代の北朝鮮経済	

1. 著者名 Kumiko Haba, Alfredo Canavero, Satoshi Mizobata	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer Singapore	5. 総ページ数 395
3. 書名 100 Years of World Wars and Post-War Regional Collaboration How to Create 'New World Order' ?	

1. 著者名 川上 高司、石井 貴太郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 248
3. 書名 パンデミック対応の国際比較	

1. 著者名 広島市立大学広島平和研究所	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有信堂高文社	5. 総ページ数 280
3. 書名 アジアの平和とガバナンス	

1. 著者名 中川雅彦	4. 発行年 2023年
2. 出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	5. 総ページ数 126
3. 書名 朝鮮労働党第8次大会と新戦略	

1. 著者名 公益社団法人 日本経済研究センター	4. 発行年 2021年
2. 出版社 公益社団法人 日本経済研究センター	5. 総ページ数 183
3. 書名 金正恩時代の北朝鮮経済	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>宮本悟「北朝鮮の新経済計画は金日成時代の「有無相通」に戻るか」『日経ビジネス』(2020.9.11) https://business.nikkei.com/atcl/seminar/19/00023/091000201/ 宮本悟「対中貿易を99%減らしても北朝鮮が自力更生を目指すのはなぜか」『日経ビジネス』(2020.12.15) https://business.nikkei.com/atcl/seminar/19/00023/121100224/ 宮本悟「北朝鮮、新型コロナ感染者はゼロだが隔離は2.5万人超」『日経ビジネス』(2020.4.22) https://business.nikkei.com/atcl/seminar/19/00023/042100164/ 宮本悟「北朝鮮・マレーシア断交、両国友好に尽力したマハティールは何思う」『日経ビジネス』(2021.3.24) https://business.nikkei.com/atcl/seminar/19/00023/032300246/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	本名 純 (Honna Jun) (10330010)	立命館大学・国際関係学部・教授 (34315)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山根 健至 (Yamane Takeshi) (10522188)	福岡女子大学・国際文理学部・准教授 (27103)	
研究分担者	池内 恵 (Ikeuchi Satoshi) (40390702)	東京大学・先端科学技術研究センター・教授 (12601)	
研究分担者	松田 康博 (Matsuda Yasuhiro) (50511482)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	
研究分担者	中西 嘉宏 (Nakanishi Yoshihiro) (80452366)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授 (14301)	
研究分担者	玉田 芳史 (Tamada Yoshifumi) (90197567)	放送大学・京都学習センター・特任教授 (32508)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 日本研究者グループ招請学会議	開催年 2023年～2023年
--------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
韓国	The Institute for Far Eastern Studies		